震度マップの見方

震度3
屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。

震度4
- 電線が大きく揺れる。
- 歩行などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が、倒れることがある。

震度5弱
- 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

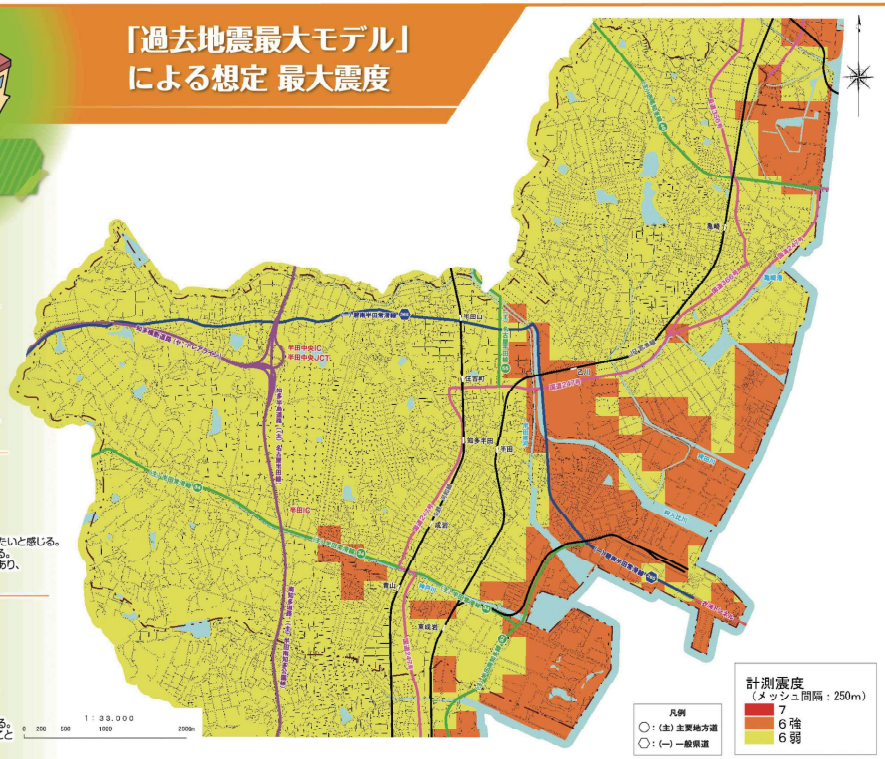
震度5強
- 物につかまらないと歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。

震度6弱
- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

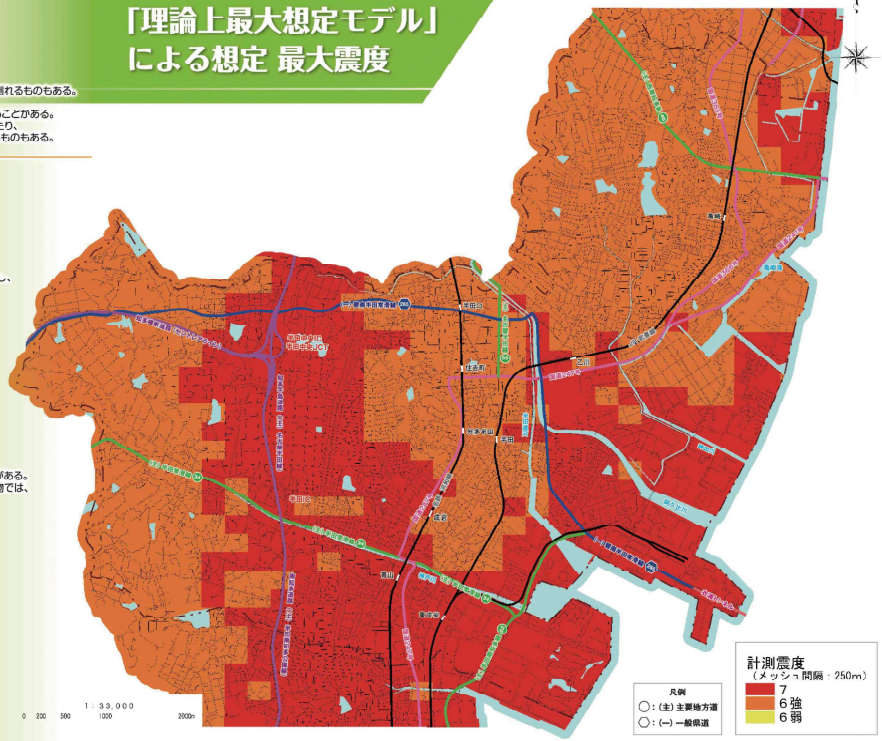
震度6強
- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。
- 地割れが生じたり、急傾斜地の崩落が発生することがある。

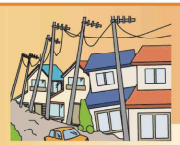
震度7
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものがさらに多くなる。
- 耐震性の高い木造建物でも、傾くものがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。

「過去地震最大モデル」による想定 最大震度



「理論上最大想定モデル」による想定 最大震度

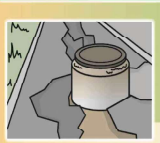




液状化による被害例

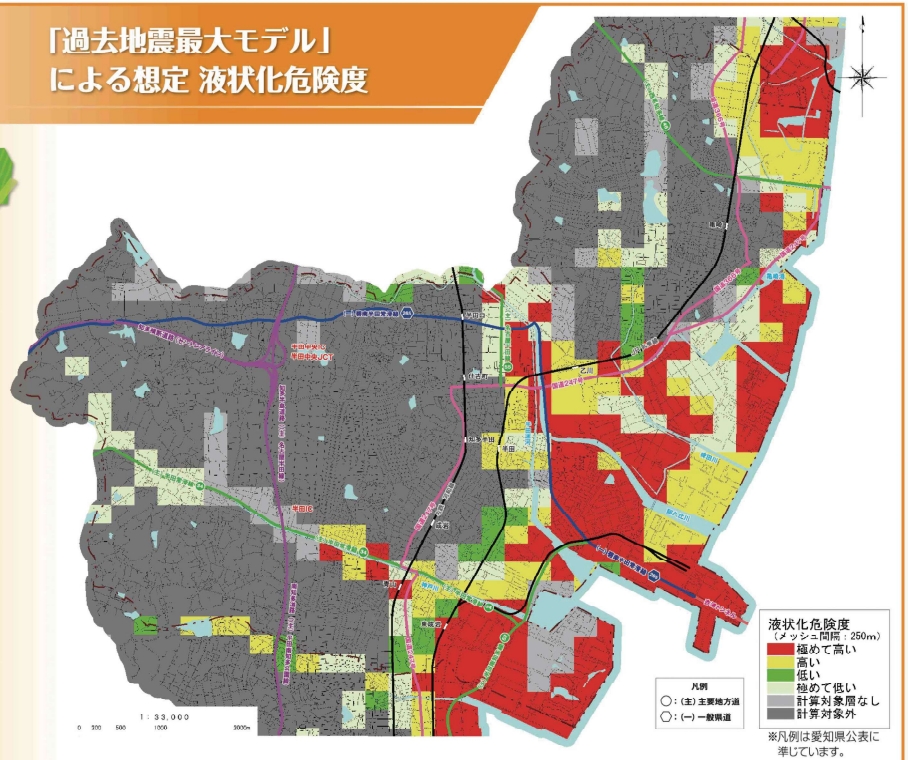
- 噴き出す泥土・沈下・陥没が激しいと通行に支障がでる。
- 沈下が大きいと雨や海水の流入による浸水が生じる。

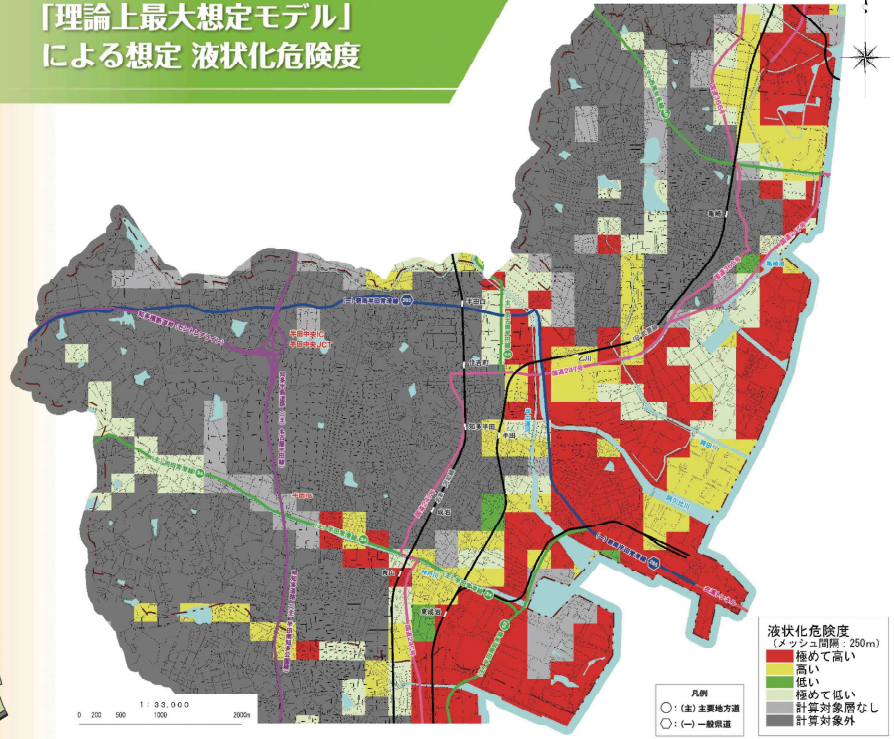
- 地盤に支えられていた建物や工作物が沈下する。沈下が一様でないことが多く、建物が傾き居住性が損なわれ健康にも影響がでる。



- 地中の軽い構造物（中空のマンホールや浄化槽など）が地面から浮き上がる。
- 地中にある埋設管にも影響がでる。

「過去地震最大モデル」による想定 液状化危険度



※凡例は愛知県公表に準じています。

「理論上最大想定モデル」による想定 液状化危険度